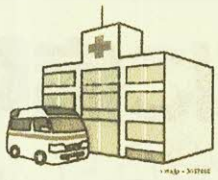
黒田みち　たんぽぽだより　NO204（2019年9月・10月）

表面より続き

救急搬送1544人

2018・H30年度の川西病院への救急搬送数は1544人。市内51.2%、猪名川22.9%、能勢14.1%豊能7.7%、その他4.1%という結果をみても、地域住民の医療の拠点となっています。（表3参照）



2016年9月から行われていた病院事業経営改革審議会では、委員から「今の医療圏域は守ってほしい」と発言があり、医師会アンケートでは、北部開業医さん達からも北部からの撤退反対の声が多いことも報告されていました。

北部地域から二次救急・入院・手術ができる病院をなくすことは考えられません。

現病院はつぶさず活用

市の構想（案）では、現病院の駐車場に8億円かけて診療所を建設するとしていますが、現病院（1983年稼働）は、まだまだ使えます。診療機能・入院ベッドの再編を行い、北部医療を守るべきです。協和会と存続にむけた協議を行うこと、3町に対しても存続にむけた話し合いや取組みを行うことを強く求めました。

そもそも熟議なし

今回の計画は、市内部で熟議のうえ決まったものではありません。

2016年7月に大塩民生前市長の命を受けた松木茂弘総合政策部長が協和会と協議、市長・副市長・松木部長という限られたメンバーで検討、方向づけされました。（現在、松木部長以外誰も居ません）

協和会と内々協議

協和会との内々の協議では、①指定管理者制度導入で公募した場合は応募の可能性はあるか②現在医療法人がもつ許可病床を手放すことは可能か③新病院開業までの間、現市立病院の赤字をカバーしていくことが可能か④市が新病院を整備する場合、キセラ用地の購入権利の辞退は可能か⑤社会医療法人化は可能か、といった意向を確認したといいます。

そのことは2016年12月議会でも2017年3月議会でも伏せたまま「北部で建替え」の方針が説明され、急きょ2017年5月1日付の新聞で発表されたのです。

この間の会議録・資料等は公文書不存在という理由で何も明らかにされていません。

無理な資料前提に

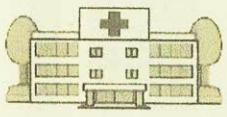
4月の指定管理移行後の状況を点検するため「市民モニター会議」と「経営評価委員会」が設置されました。市が選んだ委員による非公開の会議です。

経営評価委員会では、2018・H30年度の実態を無視した、だれが見ても無理とわかる協和会から提出された収支報告をもとに議論。協和会のモニタリングチェック表では分娩数など明らかに事実と異なる数値なのに市がチェックできていないことが明白になるなど、協議過程での市当局の答弁がその場限りのものであったことが露呈しています。

たんぽぽだより201号などでもお伝えしたように協和会との契約（協定書、計画書）違反、その後、明らかになった『「療担規則及び薬担規則並びに療担基準に基づき厚生労働大臣が定める提示事項等」及び「保険外併用療養費に係る厚生労働大臣が定める医薬品等」の実施上の留意事項についての一部改正について』という厚生労働大臣通達違反などに対しても、市のモニタリングの不十分さが明らかになりました。（右下写真参照）

駐車場・食堂・人間ドック　緩和ケア病棟が「ない」

新たに建設される予定のキセラ川西センター（400床）は、①駐車場がない（近隣商業施設の駐車場などを使えという）②外来患者やお見舞いの方が食べる食堂がない（コンビニ等やイートインのみ）③人間ドックなど検診がない④緩和ケア病棟がない、など問題・課題が山積。それなのに、北部診療所からと川西能勢口からは周遊バスを運行させる計画とか。自分たちがやりたい事業だけは、とことん税金投入で突き進むあり方は是正すべきです。



あれだけ、病院の資金不足比率が2014・H26年度決算で25.8を超えた！病院への10億円の補助金が大変だ！と大騒ぎしていましたが、2018・H30年度決算では、18億8964万円もの補助金を入れました。「入れなければ改革が飛んでしまう！」と決算委員会で答弁しましたが、まさに、あの時、4億円の資金を入れていれば、病院は赤字転落せずにすんだのです。「市立川西病院を赤字再建団体に転落」させたのは市の現市立病院閉鎖政策の結果そのものです。（表4参照）

北部に病院必要

現在進めている「構想」は危うさがいっぱいです。計画の見直しが必要です。

北部の街が、壊されないよう、莫大な借金だけが残されないよう、しっかり住民の声や願いを届け続けましょう。

世代交代、人口減少に歯止めをかけ、川西インター開通に伴う北部のまちづくりをしっかり進めるためにも北部に病院は絶対に必要です。

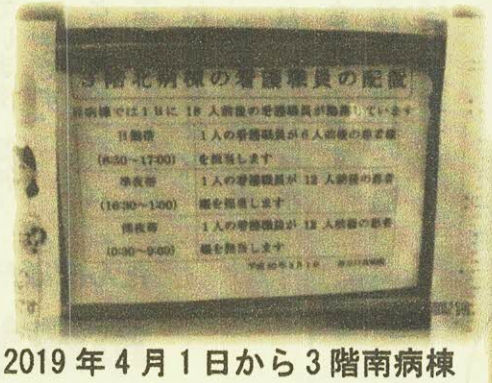
市立川西病院　救急搬送患者数　（表3）

（人）	合計	川西	猪名川	豊能	能勢	その他
H30年度	1544	791	353	119	218	63
割合	100.0	51.2%	22.9%	7.7%	14.1%	4.1%

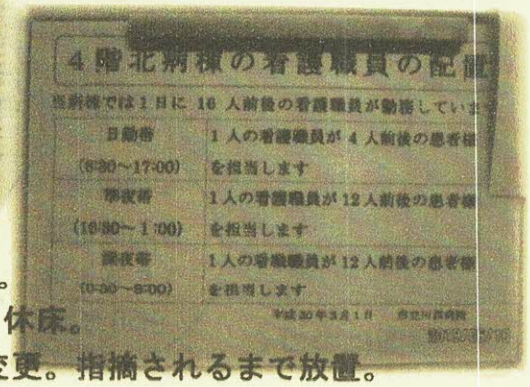
川西市外753人を48.8%、それぞれの割合で案分した人数で記載

川西市の健全化判断比率の経緯　（表4）

川西市（年度）	市の健全化判断比率		病院の資金不足比率
	実質公債費比率	将来負担比率	
2011・H23	11.4	160.9	6.6
2012・H24	11.7	152.6	17.9
2013・H25	12.3	147.3	16.0
2014・H26	11.9	133.4	25.8
2015・H27	12.2	114.1	13.8
2016・H28	11.8	99.7	14.0
2017・H29	11.4	106.3	16.9
2018・H30	10.7	117.5	14.1



2019年6月18日まで病院内で掲示されていた「看護師配置表」



2019年4月1日から3階南病棟4階北病棟は（ER）救急専門に。5月1日から4階北病棟（37床）休床。7：1看護から10：1看護体制へ変更。指摘されるまで放置。